

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第三千八百十六號

海軍大臣官房

昭和十六年六月十一日(水)

○令 達

官房機密第一六號ノ九八

昭和十六年六月十日

海軍大臣

各鎮守府司令長官
大湊、鎮海、馬公要港部司令官
股

兵器簿ノ件通達

各艦船部隊兵器簿機關長主管ノ部中左記ノ通改正ス

記

類別	種別	品名	數稱	記 事
電球之部	○	エ式一五〇W電球	各瓦 五個	各艦船部隊兵器簿機關長主管ノ部中左記ノ通改正ス
<p>官房機密第五〇七二號</p> <p>特設艦船(特設艦船ニ非ザル徵備船舶ヲ含ム以下同 ジ)ニ搭載中ノ兵器類似物件(艦艇ニ搭載ノ場合兵器 トシテ整理スベキ物件又ハ之ニ類似ノ物件ヲ謂フ以下</p>				
<p>内令提 要登載</p>				
<p>一 特設艦船ニ搭載中ノ兵器類似物件ノ修理ノ必要アルトキハ兵器ニ準ジ處理スルコトヲ得</p> <p>二 特設艦船ニ搭載中ノ兵器類似物件ノ毀損、亡失等ノ場合之ガ修理又ハ調達ニ當リ多大ノ日數ヲ要シ役務ニ支障ヲ生ズト認メタルトキハ之ト同種類若ハ類似ノ在庫兵器ヲ供給若ハ貸與シ又ハ廢品處分ノ上無償下附スルコトヲ得</p> <p>三 前各號ニ對スル手續ニ付テハ兵器造修規則又ハ兵器經理規程ヲ準用スルモノトス</p>				
<p>○通 牒</p>				
<p>軍務一機密第三九一號</p> <p>昭和十六年六月十日</p> <p>海軍省軍務局長</p>				

海軍公報(部内限) 第三千八百十六號

昭和十六年六月十一日

七四三

1610

各廳長殿

軍人軍屬ノ言動ニ關スル件申進

海軍軍人軍屬ノ部外ニ對スル言動ニ關シテハ常ニ慎重留意セシメラルル様申進致シアル處最近休暇歸省中ノ士官ノ所轄警察署員ニ爲セル談話ガ「現役海軍士官ノ時局談」トシテ縣知事ヨリ上司ニ報告セラレタル事例モ有之候條時局柄一層言動ニ留意シ特ニ憲兵、警察官吏等ノ情報蒐集ノ爲ニスル誘導的質問ニ乗セララルルガ如キコトナキ様殿ニ注意方取計相成度

艦本機密第一一號ノ五二〇七

昭和十六年六月十一日

海軍艦政本部長
海軍省經理局長

各關係廳長殿

特設艦船(特設艦船ニ非ザル徵備船舶ヲ含ム)ニ搭載中ノ兵器類似物件ノ修理等

ニ關スル件通牒

官房機密第五〇七二號ニ依ル首題ノ件實施ニ當リテハ左ノ通取扱相成度

一 徵備船舶ノ固有附屬品トシテ搭載中ノ兵器類似物件ニ對シテハ當該船舶ノ備船契約條項ニ依ル修理費

負擔區分ニ依リ整理スルモノトス

二 備船契約條項ニ依リ船主負擔トナルベキ兵器類似物件ヲ官房機密第五〇七二號第二號ニ依リ供給又ハ貸與セル場合ハ事後適當ノ時機ニ備船契約條項ニ依ル修理費負擔區分ニ依リ整理スルモノトス

○ 辭 令

海軍主計大佐 堤 恭二

總務部第二課勤務ヲ命ス(海軍航空本部)

内務事務官兼内務書記官 郡山 義夫

海南警備府附ヲ命ス

稅關港務官 久野 左直

支那方面艦隊司令部附ヲ命ス

海軍省事務囑託ヲ解ク(以上ハ海軍省)

海軍技師 西川 政一

兼ヲ在神戸監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(海軍航空本部)

海軍中佐 竹大 孝志

技術部第三課勤務ヲ命ス(海軍同)

○ 雜 款

○ 將旗復歸
第十二聯合航空隊司令官ハ本月六日將旗ヲ大村海軍航空隊ヨリ大分海軍航空隊ニ復歸セリ

○ 旗艦變更
第十二航空戰隊司令官ハ六月八日旗艦ヲ能登呂ニ變更セリ

○ 司令驅逐艦變更
第五驅逐隊司令ハ六月一日司令驅逐艦ヲ春風ヨリ旗風ニ變更セリ

第十五驅逐隊司令職務代理ハ六月三日司令驅逐艦ヲ夏潮ヨリ早潮ニ變更セリ

○ 郵便物發送先
當分ノ間當隊宛郵便物ハ左記ニ依リ發送相成度

記
司令、軍醫長、隊宛 旗風
機關長宛 松風
主計長宛 春風
(第五驅逐隊)

○ 事務所撤去

海軍砲術學校分校(假稱)設立準備委員事務所ヲ六月一日撤去セリ

○ 練習生及特技兵試驗問題ニ關スル件照會
本隊當分ノ間行動ノ關係上首題試驗ハ各艇單獨ニテ實施スル豫定ニ付同問題等ハ各艇別ニ送付方取計相成度尙行動不確定ニ付早日ニ御送付ヲ得度
(第一水雷隊)

○ 開校
館山海軍砲術學校六月一日左記ニ開校ス

千葉縣安房郡神戶村

○ 特務艦尻矢行動豫定

地名	鶴賀	横須賀	横須賀	尼ヶ崎	佐保	基隆	馬公	佐世	横須賀
着	六月二日	六月五日	六月九日	六月十三日	六月十七日	六月十九日	六月二十五日	六月三十日	
發	六月五日	六月七日	六月十四日	六月十八日	六月二十四日	六月二十六日			

○艦船所在

指▲印「ハカ」ノ
定ラ要セズ

○六月十一日午前十時
横須賀 春日▲、劍崎▲、山城、陸奥、國後

伊七、伊八

翔鶴▲(津輕)▲(伊二三)▲(伊三三)▲
伊三七▲

攝津、櫻野

【長浦】

多摩

嵐、萩風、野分

呂六二、呂六一、伊一、伊二、伊三

驅潜一五、驅潜二三、驅潜一四

哨一▲哨二▲

【石川島】

驅潜一七▲

驅潜一八▲

【横濱】

(香椎)▲(筑紫)▲

(濱風)▲(秋雲)▲

【浦賀】

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

哨三四▲哨三五▲

海軍公報(部内限)第三千八百十六號 昭和十六年六月十一日

七四七

【鎮海】野島
 【鎮南浦】野島
 【作業地】野島

掃一九
 驅潛一六
 哨三八、哨三九▲
 敷島▲早靨
 (伊二四)▲(伊二九)▲(伊三九)▲
 朝顔、芙蓉
 出雲、宇治、安宅、二見、伏見、比良、
 熱海、鳥羽、勢多、堅田、保津、隅田、
 足柄、八丈、占守、嵯峨、橋立、名取、
 磐手、勝力、駒橋、石垣、長門、日向、
 伊勢、扶桑、比叡、霧島、榛名、加古、
 衣笠、古鷹、青葉、阿武隈、川内、
 瑞鳳、鳳翔、高雄、愛宕、妙高、
 那智、羽黑、熊野、三隈、最上、鈴谷、
 利根、筑摩、神通、那珂、能登呂、
 長良、嚴島、八重山、長鯨、初鷹、
 白鷹、蒼鷹、鹿島、天龍、龍田、沖島、
 常磐、夕張、迅鯨、香取、五十鈴、
 加賀、赤城、蒼龍、飛龍、龍驤、神威、
 千歲、瑞穂、鬼怒、由良
 栗、梅、連、刈萱、秋風、太刀風、羽風、
 旗風、朝風、文月、阜月、水無月、長月、
 菊月、夕月、卯月、夕風、三日月、潮、
 曙、朧、健、子日、初春、白露、
 有明、夕暮、時雨、白雲、東雲、叢雲、
 初雪、白雪、吹雪、綾波、浦波、磯波、
 敷波、大潮、荒潮、朝潮、滿潮、夏潮、

【航海中】
 知床
 佐多
 襟裳

天津風、初風、霞、陽炎、不知火、霞、
 朝雲、山雲、峯雲、夏雲、夕立、五月雨、
 村雨、春雨、海風、江風、山風、涼風、
 浦風、谷風、沙風、帆風、峯風、沖風、
 矢風、澤風、追風、疾風、夕風、朝風、
 陸月、如月、望月、彌生、神風、沼風、
 野風、波風
 鶴、鴻、隼、鴨、雁、雉、鳩、鷺、
 真鶴、初雁、友鶴、千鳥
 呂六〇、呂六三、呂六四、呂六八、
 呂六五、呂六六、呂六七、伊四、伊五、
 伊六、伊九、伊一五、伊二六、伊一七、
 伊二〇、伊一八、伊一九、伊二二、伊五二、
 伊六一、伊六二、伊六四、伊六五、
 伊六六、伊六八、伊六九、伊七〇、
 伊七一、伊七二、伊七三、伊七五、
 伊七四、伊一二四、伊一二三
 掃二、掃一、掃三、掃四、掃五、掃六、
 掃七、掃八、掃九、掃一〇、掃一一、掃一二、
 掃一三、掃一四、掃一五、掃一六、
 驅潛一、驅潛二、驅潛三、驅潛四、
 驅潛五、驅潛六、驅潛七、驅潛八、
 驅潛九、驅潛一〇、驅潛一一、驅潛一二
 朝日、間宮、明石、宗谷、鶴見、室戸、鳴戸

(六日作業地發—横須賀—)
 (八日作業地發—佐世保—)
 (九日廣發—四日市—)

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第三千八百十七號

昭和十六年六月十二日(木)

海軍大臣官房

○ 辭 令

(各通)

海軍主計中佐 青木 大吉
同 中馬 轍二

購買名簿調査委員會委員ヲ命ス(陸海軍省)

海軍機關大佐 多田 力三

昭和十六年海軍勞働技術統計調査係長ヲ命ス

海軍機關中佐 河崎 千苗

海軍航空本部製圖工場ニ於ケル昭和十六年海軍勞働

技術統計調査係長補助ヲ命ス

海軍造兵中佐 平野 亮

(各通)

同 近藤 俊雄

海軍航空本部製圖工場ニ於ケル昭和十六年海軍勞働

技術統計調査係員ヲ命ス

海軍造兵少佐 永盛 義夫

(各通)

同 海軍造兵少佐 永盛 義夫

海軍航空本部製圖工場ニ於ケル昭和十六年海軍勞働

技術統計調査係員ヲ命ス

海軍技手 日暮 時郎
記録工長 藤田 清
記録職掌 高橋 徳

一等記録員 後藤 敏郎

海軍航空本部製圖工場ニ於ケル昭和十六年海軍勞働
技術統計調査係員補助ヲ命ス(以上 陸海軍航空本
部長)

○ 雜 款

○將旗一時移揚
第三根據地隊司令官ハ六月十日將旗ヲ一時陸上司司令部
ヨリ福山丸ニ移揚セリ

○旗艦變更
第一航空艦隊司令長官ハ六月六日旗艦ヲ赤城ニ變更セ
リ

○練習生試験問題發送
第四十七期 高等科整備術練習生採用試験問題
第四十八期 高等科整備術練習生採用試験問題
右六月七日左記ノ通發送濟、未着又ハ必要ノ向ハ至急
通知相成度
記

海軍公報(部内限) 第三千八百十七號

昭和十六年六月十二日

七四九

1615

一、單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直送
二、聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部長宛送付(聯合
試驗參加豫定ノ艦船ニシテ豫定變更ノ爲聯合試驗參
加不可能ノ向ニ對スル分トシテ若干ノ餘裕ヲ含ム)
(横須賀海軍航空隊)

○特務艦野島行動豫定

地名	着	發
佐世保		六月三十日
高雄	七月四日	七月七日
基隆	八月八日	十一月十一日
佐世保	十四日	

○正誤(辨)
昨十一日辭令欄海軍主計大佐堤 恭二辭令文ノ下ニ
「(陸軍海軍航空本部)」ヲ脱ス

○艦船所在 印ハハカシノ
指定ヲ要セズ

○六月十二日午前十時

【横須賀】春日▲劍崎▲山城▲陸奥▲國後▲

伊七▲伊八▲

伊七▲伊八▲(翔鶴)▲(津輕)▲(伊二三)▲(伊三三)▲

伊三七▲

櫻野、知床

【長浦】多摩▲

野分▲嵐▲萩風▲

呂六二▲呂六一▲伊一▲伊二▲伊三▲

伊五▲伊六▲伊七▲伊八▲伊九▲

伊一▲伊二▲伊三▲伊四▲

伊一▲伊二▲

【石川島】(驅潜一七)▲

【鶴見】(驅潜一八)▲

【横濱】(香椎)▲(筑紫)▲

【浦賀】(濱風)▲(秋雲)▲

【大湊】哨三四▲哨三五▲

【四日市】襟裳▲

【吳】北上▲淺間▲八雲▲大鯨▲千代田▲

伊五七▲伊五八▲伊五九▲伊六〇▲

伊六一▲伊六二▲伊六三▲伊六四▲

伊六五▲伊六六▲伊六七▲伊六八▲

伊六九▲伊七〇▲伊七一▲伊七二▲

伊七三▲伊七四▲伊七五▲伊七六▲

伊七七▲伊七八▲伊七九▲伊八〇▲

伊八一▲伊八二▲伊八三▲伊八四▲

海軍公報(部内限)第三千八百十七號 昭和十六年六月十二日 七五二

驅潜五一、驅潜五二、驅潜五三

哨四六▲

石原▲隱戸▲

(日進)▲(瑞鶴)▲(伊二七)▲(伊三五)▲

伊七六▲

球磨▲(舞風)▲(驅潜二一)▲

尻矢▲

狹霧▲

伊一一▲

伊一〇▲(伊二一)▲(伊二五)▲

伊三一▲(伊良湖)▲(伊四一)▲

伊一一▲

伊一〇▲(伊六〇)▲

伊六〇▲

伊六一▲(驅潜一九)▲

伊六〇▲

伊六一▲(驅潜二〇)▲

伊六〇▲

伊六一▲(哨三一、哨三二、哨三三)

伊六〇▲

伊六一▲(薄雲)▲

伊六〇▲

伊六一▲(哨三六、哨三七)

伊六〇▲

伊六一▲(夕雲)▲

伊六〇▲

伊六一▲(木曾)

伊六〇▲

伊六一▲(松風)▲(春風)▲(若葉)▲(初霜)▲

伊六〇▲

伊六一▲(呂三〇)▲(呂三一)▲(呂三二)▲(呂三三)

伊六〇▲

伊六一▲

伊六〇▲

伊六一▲

伊六〇▲

伊六一▲

伊六〇▲

伊六一▲

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第三千八百十八號

昭和十六年六月十三日(金)

海軍大臣官房

○辭令

軍令部出仕海軍機關少佐 今井 和夫

第三部勤務ヲ命ス(海軍司令部)

海軍機關少佐 今井 和夫

參謀部第三部勤務ヲ命ス(大本營海軍部)

海軍少佐 碓 壯次

第一課勤務ヲ命ス(海軍省兵備局)

海軍事務官 畑中 市藏

第二課勤務ヲ命ス(海軍省人事局)

海軍技手 唐澤 政男

在大阪監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(海軍航空本部)

同 安室 信平

技術部第一課附ヲ命ス

主トシテ在東京監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(同)

○雜款

○代將旗移揚
第二十三航空戰隊司令官ハ六月十日代將旗ヲ陸上基地ニ移揚セリ

○司令旗一時變更
第四砲艦隊司令ハ六月九日司令旗ヲ一時第四一號砲艦ヨリ四二號砲艦ニ變更セリ

○司令驅逐艦復歸
第四驅逐隊司令ハ六月十日司令驅逐艦ヲ野分ヨリ嵐ニ復歸セリ

○特務艦野行動豫定

地名	着	發
長崎	六月二日	六月二日
佐保	六月五日	六月四日
吳	六月十五日	六月八日
横須賀	六月十五日	六月十三日
吳	六月十五日	六月十八日

海軍公報(部内限) 第三千八百十八號 昭和十六年六月十三日

七五三

1619

海軍公報(部内限) 第三千八百十八號 昭和十六年六月十三日

佐長 吳佐長
世 世
保崎 保崎

二十九日
二十三日
二十六日
二十八日

二十日
二十二日
二十五日
二十八日
三十日

七五四

1620

○艦船所在 印ハハホノ
指定ヲ要セズ

○六月十三日午前十時

【横須賀】春日▲、劍崎▲、山城▲、陸奥▲、國後▲

伊七▲、伊八▲、電▲

伊七▲、伊八▲、(伊二三)▲、(伊三三)▲

伊三七▲

樺野、知床

【長浦】▲

多摩▲、嵐▲、萩風▲

伊六二▲、伊六一▲、伊六一▲、伊二▲、伊三▲

伊一▲、伊二▲、伊三▲、伊四▲

【石川島】

【鶴見】

【横濱】

【浦賀】

【大湊】

【四日市】

【吳】

襟裳

北上▲、淺間▲、八雲▲、千代田▲、摩耶▲

伊五七▲、伊五八▲、伊五九▲、伊五三▲

伊五四▲、伊五五▲、伊五六▲、伊五七▲

伊五八▲、伊五九▲、伊六〇▲、伊六一▲

伊六一▲、伊六二▲、伊六三▲、伊六四▲

伊六四▲、伊六五▲、伊六六▲、伊六七▲

伊六七▲、伊六八▲、伊六九▲、伊七〇▲

伊七〇▲、伊七一▲、伊七二▲、伊七三▲

伊七三▲、伊七四▲、伊七五▲、伊七六▲

伊七六▲、伊七七▲、伊七八▲、伊七九▲

伊七九▲、伊八〇▲、伊八一▲、伊八二▲

伊八二▲、伊八三▲、伊八四▲、伊八五▲

伊八五▲、伊八六▲、伊八七▲、伊八八▲

伊八八▲、伊八九▲、伊九〇▲、伊九一▲

伊九一▲、伊九二▲、伊九三▲、伊九四▲

伊九四▲、伊九五▲、伊九六▲、伊九七▲

【大 阪】

石廊▲、隱戸▲

日進▲、瑞鶴▲、(伊二七)▲、(伊三五)▲

伊七六▲、球磨▲

伊七六▲、(舞風)▲、(驅潜二一)▲

伊二一▲、伊二二▲

伊二二▲、伊二一▲、(伊二一)▲、(伊二五)▲

伊三一▲、伊三二▲、(伊良湖)▲、(伊四一)▲

伊三一▲、伊三二▲、伊三三▲

伊三三▲、伊三四▲、伊三五▲

伊三四▲、伊三五▲、伊三六▲

伊三五▲、伊三六▲、伊三七▲

伊三六▲、伊三七▲、伊三九▲

伊三七▲、伊三九▲、伊四〇▲

伊三九▲、伊四〇▲、伊四一▲

伊四〇▲、伊四一▲、伊四二▲

伊四一▲、伊四二▲、伊四三▲

伊四二▲、伊四三▲、伊四四▲

伊四三▲、伊四四▲、伊四五▲

伊四四▲、伊四五▲、伊四六▲

伊四五▲、伊四六▲、伊四七▲

伊四六▲、伊四七▲、伊四八▲

伊四七▲、伊四八▲、伊四九▲

伊四八▲、伊四九▲、伊五〇▲

伊四九▲、伊五〇▲、伊五一▲

伊五〇▲、伊五一▲、伊五二▲

伊五一▲、伊五二▲、伊五三▲

伊五二▲、伊五三▲、伊五四▲

伊五三▲、伊五四▲、伊五五▲

伊五四▲、伊五五▲、伊五六▲

伊五五▲、伊五六▲、伊五七▲

海軍公報(部内限) 第三千八百十八號 昭和十六年六月十三日 七五五

哨三八▲哨三九▲
 敷島▲早朝▲
 (伊二四)▲(伊二九)▲(伊三九)▲
 【鎮海】野島
 【鎮南浦】野島
 【作業地】野島

野島
 出雲、宇治、安宅、二見、伏見、比良、熱海、鳥羽、勢多、堅田、保津、園田、八丈、占守、嵯峨、橋立、名取、駒橋、長門、日向、伊勢、勝力、比叡、霧島、榛名、加古、扶桑、比叡、霧島、榛名、加古、衣笠、古鷹、青葉、阿武隈、川内、瑞鳳、鳳翔、高雄、鳥海、愛宕、妙高、那智、羽黑、熊野、三隈、最上、鈴谷、筑摩、神通、那珂、能登呂、利根、嚴島、八重山、長鯨、初鷹、白鷹、蒼鷹、鹿島、天龍、龍田、沖島、常磐、夕張、迅鯨、香取、五十鈴、加賀、赤城、蒼龍、飛龍、龍驤、神威、千歲、瑞穂、鬼怒、由良、栗、梅、蓮、刈萱、秋風、太刀風、羽風、旗風、朝風、文月、卓月、水無月、長月、菊月、夕月、卯月、夕風、三日月、潮、曙、朧、漣、子日、初春、白露、有明、夕暮、時雨、白雲、東雲、叢雲、初雪、白雪、吹雪、綾波、浦波、磯波、敷波、大潮、荒潮、朝潮、滿潮、夏潮、早潮、親潮、黑潮、天津風、初風、雪風、時津風、霞、陽炎、不知火、霞、朝雲、

【航海中】
 佐多(八日作業地發|佐世保へ)
 石垣(十一日作業地發|大湊へ)
 掃矢(十一日佐世保發|佐世保へ)
 尻矢(十一日吳發|佐世保へ)
 磐大(十二日作業地發|佐世保へ)
 手鯨(十二日作業地發|佐世保へ)

山雲、峯雲、夏雲、夕立、五月雨、村雨、春雨、海風、江風、山風、涼風、浦風、谷風、沙風、帆風、峯風、沖風、矢風、澤風、追風、疾風、夕風、朝風、陸月、如月、望月、彌生、神風、沼風、野風、波風、真鶴、初雁、友鶴、千鳥、雉、鳩、鶯、鶴、鴻、集、鴨、雁、千鳥、雉、鳩、鶯、呂六〇、呂六三、呂六四、呂六八、呂六五、呂六六、呂六七、呂七四、呂七五、伊二〇、伊二八、伊二九、伊三二、伊六一、伊六二、伊六四、伊六五、伊六六、伊六八、伊六九、伊七〇、伊七一、伊七二、伊七三、伊七五、伊七四、伊一二四、伊一二三、掃七、掃八、掃九、掃一〇、掃一三、掃一四、掃一五、掃一六、掃一三、掃一四、掃一五、掃一六、驅潛五、驅潛六、驅潛七、驅潛八、驅潛九、驅潛一〇、驅潛一、驅潛二、朝日、間宮、明石、宗谷、鶴見、室戸、鳴戸、攝津

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十六年六月十三日(金)
海軍大臣官房

○通牒

教育第一三三號

昭和十六年六月十二日

海軍省教育局長

學術獎勵賞授與内規改正ノ件申進
昭和十三年十二月五日教育第四八四號申進ニ依ル首題
内規左記ノ通改正相成候

海軍
則登載

關係各廳長殿

記

第二條褒賞區分表ヲ左ノ如ク改ム

褒賞スベキ練習生	褒賞者	褒賞種別	記事
甲種飛行豫科練習生	當該練習航空隊ノ司令	山階宮航空術獎勵賞	
乙種飛行豫科練習生		航空術獎勵賞	
丙種飛行豫科練習生			
普通科航空兵器術練習生			
普通科整備術練習生		航空術獎勵賞	

海軍公報 (部内限) 號外

普通科砲術練習生	普通科測的術練習生	普通科水雷術練習生	普通科機雷術(機雷)練習生	普通科機雷術(水中測的)練習生	普通科運用術操舵練習生	普通科運用術應急練習生	普通科信號術練習生	普通科電信術練習生	普通科機關術練習生	普通科電機術練習生	普通科工作術練習生	普通科看護術練習生	普通科經理術練習生	普通科衣糧術練習生
海軍砲術學校長	海軍水雷學校長	海軍機雷學校長	海軍航海學校長	海軍通信學校長	海軍工機學校長	海軍工作學校長	當該海軍病院長	海軍經理學校長						
砲術獎勵賞	水雷術獎勵賞	機雷術獎勵賞	航海運用術獎勵賞	信號術獎勵賞	電信術獎勵賞	機關術獎勵賞	電機術獎勵賞	工作術獎勵賞	看護術獎勵賞	經理術獎勵賞	衣糧術獎勵賞			

特修科軍樂術練習生 横須賀海兵團長 軍樂術獎勵賞

第三條第一號中各種練習生ノ下「乙種飛行豫科練習生、」ヲ「(各種飛行豫科練習生、)ニ改メ同條第二號ヲ「山階宮航空術獎勵賞ハ甲種及乙種飛行豫科練習生ノ每期卒業者中各專修別ヲ通シ最優等者一名ニ授與ス」ニ改メ同條第三號中「普通科航空兵器術練習生」ノ上ニ「各種飛行豫科練習生」ヲ加ヘ專修別區分ノ表ヲ左ノ如ク改ム

乙種飛豫		甲種飛豫			練習生別		專修別		記事			
操縱	偵察(攻撃)	偵察(通信)	操縱	偵察(攻撃)	偵察(通信)	操縱	偵察(攻撃)	偵察(通信)				
普機	普測	普砲	普空	丙種飛豫								
內火	罐械	幹部電機班	測的班	陸戰班	陸上對空班	對空班	對水上班	寫真	雷爆兵器	射爆兵器	偵察(攻撃)	偵察(通信)

海軍公報 (部内限) 號外

三

1625

第四條賞品區分ヲ左ノ如ク改ム

普 工	金	工
	木	
右 以 外	精工舎製「クローム」側一七型 「ミニスター」七石入懷中時計	品
	山階宮航空 術獎勵賞 精工舎製銀側一七型「ライト」十 五石入懷中時計	

参照 海軍諸例則卷三、八七八ノ五頁

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第三千八百十九號

海軍大臣官房

昭和十六年六月十四日(土)

○令 達

官房機密第五〇二八號

所屬長官ハ六月三十日現在員(特ニ指定スル者ヲ除ク)ニ付左記標準ニ依リ臨時賞與ヲ支給スベシ但シ昭和十五年十二月二日ヨリ本年六月三十日迄ノ日數ヲ賞與ノ一期間トス
昭和十六年六月十日

海軍大臣

記 分 區

軍 人	賞與額 <small>(本俸又ハ給料ニ付)</small>
文官、同待遇者	一箇月分以内
囑託者 <small>(一時ノ報酬ヲ受クル者及本官アル者ヲ除ク)</small>	一箇月分以内
雇員 備人 <small>(月給者)</small>	一箇月分以内
同 <small>(日給者)</small>	三十日分以内

官房機密第五〇二九號

所屬長官ハ本年六月中ニ召集解除、現役滿期及服役延

海軍公報(部内限) 第三千八百十九號 昭和十六年六月十四日

七五七

○通 牒

昭和十六年六月十日

海軍大臣

官房第三一九八號 昭和十七年機密第七三三號ニテ本號廢止

昭和十六年六月十日

海軍次官



各所屬長官殿
賞與ノ一部ヲ以テ國債又ハ貯蓄債券買入ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ從來年末賞與等ニ於テ之ヲ實施シ相當ノ成果ヲ納メツアル處我國ノ戰時財政ノ現狀ハ逐年膨脹ノ一途ヲ辿リ國債ノ發行亦之ニ比例シテ増加シ之ガ消化ハ刻下喫緊ノ事項タルハ言ヲ俟タザル所ニ

有之候之ガ爲別紙要綱ニ依リ賞與ノ國債支給運動ヲ全
國的ニ實施スルコトト相成海軍トシテモ極力之ニ協力
スルコトニ定メラレ候ニ付テハ概ネ左記ニ依リ可然取
計相成度

記

一、買入ヲ爲ス者ノ範圍

昭和十三年官房第三〇八四號申進ニ依リ貯金ヲ爲ス
者ノ範圍トス

二、賞與ノ種類

特ニ定ムル場合ノ外年末賞與、年度末賞與及臨時賞
與トス

三、國債又ハ債券ノ種類

事變關係國債、貯蓄債券又ハ報國債券トシ各人ノ申
出ニ依ルヲ原則トス

四、買入額標準

左ノ額以上本人ノ申出額トス但シ賞與最高額ノ五割
以下ノ賞與ヲ受クル者ニ付テハ本人ノ申出額トス

賞與額百圓以下ノ者 賞與額ノ一割相當額

賞與額二百五十圓以下ノ者

賞與額ノ一割五分相當額

賞與額五百圓以下ノ者 賞與額ノ二割相當額

賞與額千圓以下ノ者 賞與額ノ二割五分相當額

賞與額千圓ヲ超ユル者 賞與額ノ三割五分相當額

前項ニ依リ債券ノ買入ヲ爲ス賞與ニ付テハ昭和十三

年官房第三〇八四號申進ニ依ル貯金ハ之ヲ爲スニ及

バザルモノトス

艦隊所屬艦船等ニシテ國債又ハ債券ノ買入ヲ困難ト

スル事情アルトキハ前項申進ノ貯金ヲ爲スモノトシ

其ノ額ハ第一項ノ標準ニ依ルモノトス

五、報 告

各廳ハ賞與支給後速ニ別紙様式ニ依ル調書ヲ作製シ

所屬司令部經由ノ上海軍省經理局ニ送付スルモノト

ス

六、工員及職員ニ付テハ前各號ニ準シ海軍艦政本部長

之ヲ定ムルモノトス

(様式添)

(別紙)

昭和十六年上期末賞與國債支給運動實施

要綱

一、趣 旨

東亞共榮圈建設ノ途上ニ於ケル戰時國家財政ノ膨脹
ハ必然ノ趨勢ナル處、本年度國債發行額ハ少クトモ

七十五億圓ヲ豫定セラレ之ガ圓滑ナル消化ハ現下喫緊ノ要務タルノミナラズ、購買力ノ急速ナル吸收ノ爲諸給與ノ源泉ニ於テ之ヲ貯蓄セシムルノ目的ヨリシテ賞與ノ國債支給ハ其ノ效果極メテ大ナルモノアリ。仍テ本年上期末賞與支給ニ當リ各會社、工場等ニ對シ能フ限り多額ヲ事變國債又ハ貯蓄債券ヲ以テ支給スルヤウ廣ク之ガ實行ヲ求メントス

二、支給標準

國債又ハ貯蓄債券（報國債券ヲ含ム）ヲ以テ支給スベキ金額ハ左記割合ヲ最低限度トシ猶賞與受給者各自ノ扶養家族ノ有無其ノ他ヲ斟酌シ之ヲ引上グルコト

賞與額 <small>（期末手当 臨時手当 ヲ含ム）</small>	國債、貯蓄債券支給割合
百圓以下	賞與額ノ一割相當額以上
二百五十圓以下	同 一割五分相當額以上
五百圓以下	同 二割相當額以上
千圓以下	同 二割五分相當額以上
五千圓以下	同 三割五分相當額以上
五千圓ヲ超ユルモノ	同 四割五分相當額以上

三、實施方法

- (一) 各省ハ夫々關係會社、關係團體等ニ對シ趣旨ノ普及徹底ヲ圖リ實行ヲ求ムルコト尙官公署ニシテ上期末賞與ノ支給セラルル向ニ在リテハ本要綱ニ準ジ實行スルコト
- (二) 道府縣ハ
 - (1) 管内事務所、營業所、工場、事業場等ニ對シ其ノ代表者ノ會合ヲ求メ或ハ貯蓄週間等ノ利用ニ依リ廣ク一般關係者ニモ呼掛ケ實行ヲ求ムルコト、尙之ガ爲ニハ各種關係團體等ヲモ積極的ニ動員スルコト
 - (2) 從來ノ實績ニ微シ實行不充分ナリト認メラルル向ニ對シテハ個別的ニ其ノ原因ヲ檢討シ必ズ所定ノ標準以上ヲ實行スルヤウ指導スルコト
 - (3) 支給シタル國債、貯蓄債券ハ無料保管制度ノ利用等ニ依リ換價防止ノ措置ヲ講ゼシムルコト
 - (4) 會社經理統制令等ノ法令ニ基キ賞與申其ノ一部ヲ國債等ヲ以テ支給シ之ヲ會社ニテ保管スル場合ニ在リテハ賞與總額ニ對シ前記ノ支

給標準ニ依リ算出シタル金額ヨリ法令ニ基キ國債等ヲ以テ支給スル額ヲ差引タル殘額ニ付之ヲ勵行セシムルコト

(ロ) 道府縣ニ於テ本年度國債消化目標額ヲ定メタル場合ニ於テハ既往ノ消化實績ト對比勘案シ、本運動ノ徹底ニ依リ目標額達成ニ資スルコト

四、實施上ノ注意事項

(イ) 國債又ハ貯蓄債券ヲ以テ支給シタル額ハ貯蓄組合ニ於ケル賞與貯蓄額ノ一部トシテ計算スルモ差支ナキコト

(ロ) 事務所、工場等ニ於テ支給スベキ國債、貯蓄債券ハ本社ニ於テ一括入手スルコトヲ避ケ各事務所、工場等毎ニ最寄ノ郵便局又ハ日本勸業銀行等ト連絡シ所要證券ヲ購入セシムルコト

海人機密第一號ノ一四五

昭和十六年六月十日

海軍省人事局長
海軍省經理局長
關係各所轄長殿
臨時賞與支給ニ關スル件申進

官房機密第五〇二八號ニ依ル臨時賞與ハ左記ニ依リ取扱フモノトシ知相成度尙左記第一號及第五號ハ官房機密第五〇二九號該當者ニモ之ヲ適用ス

記

一 勤務日數ハ昭和十五年十二月二日ヨリ本年六月三十日迄ノ日數ヲ一期間トシテ年末年度末賞與内規ヲ適用ス但シ勤務日數三十日未滿ノ者ニ對シテハ同内規第四條ノ規定ニ拘ラズ左ノ通取扱フモノトス

勤務日數

賞與額

二十二日以上三十日未滿 全額ノ二割以内
十五日以上二十二日未滿 全額ノ一割以内
十五日未滿 支給セズ

二 海軍文官、同待遇者、囑託者又ハ雇員傭人ニシテ在籍ノ儘海軍ニ召集セラレ本月三十日ニ於テ海軍軍人タル者ニ對シテハ海軍文官、同待遇者、囑託者又ハ雇員傭人タル身分ニ於ケル俸給、報酬金又ハ給料ニ付召集中ノ日數ヲ除算シタル勤務日數ニ應ジ算出シタル金額ヲ在籍應ニ於テ支給シ召集中ノ海軍軍人タル身分ニ於ケル俸給ニ付召集中ノ勤務日數ニ應ジ算出シタル金額ヲ現所屬應ニ於テ支給ス

三 海軍文官、同待遇者、囑託者又ハ雇員傭人ニシテ

在籍ノ儘海軍ニ召集セラレ本月三十日以前ニ召集ヲ解除セラレ在籍應ニ復歸シタル者ニ對シテハ本月三十日現在ノ海軍文官、同待遇者、囑託者又ハ雇員傭人タル身分ニ於ケル俸給、報酬金又ハ給料ニ付召集中ノ勤務日數ヲ通算シ算出シタル金額ヲ在籍應ニ於テ支給ス

四 海軍文官、同待遇者、囑託者又ハ雇員傭人ニシテ在籍ノ儘陸軍ニ召集セラレ本月三十日現在ニ於テ召集中ノ者又ハ其ノ以前ニ於テ召集ヲ解除セラレ在籍應ニ復歸シタル者ニ對シテハ本月三十日現在ノ海軍文官、同待遇者、囑託者又ハ雇員傭人タル身分ニ於ケル俸給、報酬金又ハ給料ニ付召集中ノ日數ヲ除算シタル勤務日數ニ應ジ算出シタル金額ヲ在籍應ニ於テ支給ス

五 海軍軍人ニシテ支那事變ニ關シ陸軍ノ勤務ニ從事セシメラレタル者ニ對シテハ陸軍ニ於ケル勤務日數ヲ通算シ算出シタル金額ヲ海軍ノ在籍應ニ於テ支給ス

六 昭和十五年十二月二日ヨリ本年六月三十日迄ニ一回以上召集セラレタル者ノ召集中ノ日數ハ其ノ前後ノモノヲ通算ス

經豫第四號ノ三〇

昭和十六年六月十日

海軍省 經理局長

各支出官殿

臨時賞與支出科目ノ件通牒

本年官房機密第五〇二八號、同第五〇二九號及昭和十五年官房機密第四一六二號ニ依ル臨時賞與支出科目ハ左ノ通取計相成度

一 賞與ノ科目設置アルモノ及特ニ指示アル場合ノ外各基本給支辨科目
二 六月三十日附所屬ヲ轉シ又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ基本給支辨科目ヲ異ニスル者ニ付テハ從來ノ基本給支辨科目

經豫第四號ノ三一

昭和十六年六月十日

海軍省 經理局長

各支出官殿

臨時賞與支給額調ノ件通牒

本年官房機密第五〇二八號及同第五〇二九號ニ依ル臨時賞與支給額調昭和六年經豫第五七四號ニ準ジ調製來

七月三十日迄ニ當局ニ提出相成度

經豫第四號ノ三二

昭和十六年六月十日

海軍省 經理局長

各支出官殿

臨時家族手當ニ相當スル臨時賞與支給額
調ノ件通牒

昭和十五年官房機密第四一六二號及昭和十六年經給機
密第一〇號ニ依ル首題臨時賞與支給額調昭和十四年經
豫第四號ノ二七ニ準ジ調製來七月三十日迄ニ當局ニ提
出相成度

○ 辭 令

海軍主計中尉 坂東 定次

第四防備隊ボナベ支隊ノ給與及其他ノ經費支拂ノ爲
艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計兵曹長 阿部 善作

右同臨時分任出納官吏ヲ免ス(以上請支支出官 海軍
省 經理局長)

技術部第一課勤務ヲ命ス
海軍技師 福田 正男

主トシテ在東京監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(十六
海軍航空本部)

○ 雜 款

○將旗一時移揚
第二遣支艦隊司令長官ハ六月十一日將旗ヲ一時八丈ニ
移揚シ、同日足柄ニ復歸セリ

○郵便物發送先
自今當隊宛郵便物ハ左記ニ依リ發送相成度

佐世保郵便局氣付 海軍手東部隊

追テ當隊宛書類ニシテ乾隆丸宛書類ト同封送付セラ
ルル向アルモ同船トハ分離行動多キニ付自今當隊宛
書類ハ乾隆丸宛書類ト別封トシ送付ヲ得度
(第二 防 備 隊)

當隊、司令、主計長、機關長、軍醫長宛竝ニ一般書類
ハ自今第十五福榮丸宛送付相成度
(第五十二 驅 潛 隊)

(様式)

昭和十六年度何々賞與國債支給實施狀況調

(昭和十六年六月十四日海軍公報(部内限)別紙)

賞與支給 月 日	區 分	(イ)賞與支給 總額		(ロ)對(イ) ノ割合		(ハ)賞與支給 人員		(ニ)對(ハ) ノ割合	
		(イ)賞與支給 總額	(ロ)國債、貯蓄債 券買入總額	(イ)賞與支給 人員	(ニ)國債、貯蓄債 券買入人員	(イ)賞與支給 人員	(ニ)國債、貯蓄債 券買入標準		
	國債			%				%	
	貯蓄債券								
	計								

記載上ノ注意事項

- 一、賞與支給總額ハ國債、貯蓄債券ヲ買入タルト否トラ問ハズ總人員ニ對スル賞與總額ヲ掲上スルコト
- 二、國債、貯蓄債券買入額ハ賣出價額(例ヘバ國債百圓券ハ九十八圓、割引國債十圓券ハ七圓又貯蓄債券十五圓券ハ十圓ノ割)ニテ記載スルコト
- 三、國債、貯蓄債券買入人員中國債、貯蓄債券ヲ併セ買入タル者ニ付テハ重複ヲ避クル爲合計欄ニハ一人トシテ掲上スルコト
- 四、報國債券ヲ買入タルトキハ貯蓄債券欄ニ合算掲記スルコト

○艦船所在

指印△印△「ハ」ホノ
定タヲ裏セズ

○六月十四日午前十時

【横須賀】

春日△、劍崎△、山城△、陸奥△、國後△
伊七△、伊八△、伊三三△、伊三七△

伊三三△、伊三七△

伊三七△、伊三三△

伊三七△、伊三三△

【長浦】

野分△、萩風△

伊一△、伊二△、伊三△

伊一△、伊二△、伊三△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

伊一△、伊二△

海軍公報(部内限)第三千八百十九號

昭和十六年六月十四日

七六三

【鎮海】野島
 (伊二四)▲(伊二九)▲(伊三九)▲
 敷島▲早鞆▲尻矢▲
 【鎮南浦】野島

【作業地】野島
 熱海、鳥羽、勢多、堅田、保津、隅田、
 足柄、八丈、古守、嵯峨、橋立、名取、
 勝力、駒橋、長門、日向、伊勢、扶桑、
 比叡、霧島、榛名、加古、衣笠、古鷹、
 青葉、阿武隈、川内、瑞鳳、鳳翔、
 高雄、鳥海、愛宕、摩耶、妙高、那智、
 羽黒、熊野、三隈、最上、鈴谷、利根、
 筑摩、神通、那珂、長良、嚴島、
 八重山、長鯨、能登呂、初鷹、白鷹、
 蒼鷹、鹿島、天龍、龍田、沖島、常磐、
 夕張、迅鯨、香取、大鯨、五十鈴、
 加賀、赤城、蒼龍、飛龍、龍驤、神威、
 千歳、瑞穂、鬼怒、由良、
 栗、梅、蓮、刈萱、秋風、太刀風、羽風、
 旗風、朝風、文月、皐月、水無月、長月、
 菊月、夕月、卯月、夕風、三日月、潮、
 曙、朧、漣、子日、初春、白露、
 有明、夕暮、時雨、白雲、東雲、叢雲、
 初雪、白雪、吹雪、綾波、浦波、磯波、
 敷波、大潮、荒潮、朝潮、滿潮、夏潮、
 早潮、親潮、黒潮、天津風、初風、雪風、
 時津風、霞、陽炎、不知火、霞、朝雲、
 山雲、峯雲、夏雲、夕立、五月雨、村雨、

【航海中】

佐多(八日作業地發—佐世保へ)
 石垣(伊五二)(十一日作業地發—大湊へ)
 磐手(十二日作業地發—佐世保へ)
 襟裳(十三日四日市發—佐世保へ)

春雨、海風、江風、山風、涼風、浦風、
 谷風、沙風、帆風、峯風、沖風、矢風、
 澤風、追風、疾風、夕風、朝風、陸月、
 如月、望月、彌生、神風、沼風、野風、波風、
 鶴、鴻、隼、鶉、雁、雉、鳩、鷺、
 真鶴、初雁、友鶴、千鳥、
 呂六〇、呂六三、呂六四、呂六八、
 呂六五、呂六六、呂六七、呂六八、
 伊六、伊九、伊一五、伊一六、伊一七、
 伊二〇、伊一八、伊一九、伊二二、
 伊六一、伊六二、伊六四、伊六五、
 伊六六、伊六八、伊六九、伊七〇、
 伊七一、伊七二、伊七三、伊七五、
 伊七四、伊一二四、伊一二三、
 掃六、掃二、掃一、掃三、掃四、掃五、
 掃七、掃八、掃九、掃一〇、掃一一、
 掃一三、掃一四、掃一五、掃一六、掃一九、
 驅潛一、驅潛二、驅潛三、驅潛四、
 驅潛五、驅潛六、驅潛七、驅潛八、
 驅潛九、驅潛一〇、驅潛一一、驅潛一二、
 朝日、間宮、明石、宗谷、鶴見、室戸、鳴戸、
 攝津

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第三千八百二十號

昭和十六年六月十六日(月)

海軍大臣官房

○ 辭 令

(各通)

從三位勳二等 池田 清
從六位 井川 實
海軍省事務囑託ヲ解ク (海軍省)

從三位勳二等 池田 清
海南警備府ニ於ケル事務ヲ囑託シ海南警備府附ヲ命
ス
但シ報酬年額六千五百圓ヲ給シ部内限勅任官待遇
トス

海南警備府附 池田 清
海南海軍特務部總監ヲ命ス
臺北帝國大學教授 下條 久馬一

海南警備府ニ於ケル事務ヲ囑託シ海南警備府附ヲ命
ス
但シ報酬年額壹萬圓ヲ贈與ス
海南警備府附 下條 久馬一

海南海軍特務部局長ヲ命ス
海南警備府附 下條 久馬一

海南警備府ニ於ケル事務ヲ囑託シ海南警備府附ヲ命
ス
但シ報酬年額參千貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇
トス

中江 宗一
海南警備府附 中江 宗一

海南海軍特務部部員ヲ命ス
羽出山 吉政
海南警備府ニ於ケル事務ヲ囑託シ海南警備府附ヲ命
ス
但シ報酬年額參千貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇
トス

羽出山 吉政
海南警備府附 羽出山 吉政

海南海軍特務部部員ヲ命ス
從六位 井川 實
海南警備府ニ於ケル事務ヲ囑託シ海南警備府附ヲ命
ス
但シ報酬年額參千百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト

井川 實
海南警備府ニ於ケル事務ヲ囑託シ海南警備府附ヲ命
ス
但シ報酬年額參千百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト

海軍公報(部内限) 第三千八百二十號 昭和十六年六月十六日

七六五

1636

ス

海南海軍特務部部員ヲ命ス
海南警備府附 井川 實

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス
島浦 精二

(各通)
高野 重幾
飯田 次男
杉本 勝策
保田 廣
内田 孝藏
嵯峨山 健一

海軍省事務ヲ囑託シ部内限判任官待遇トス(以上諸同)

遞信局書記 寺島 平造

第三海軍軍用郵便所員ヲ免ス
事務員 落合孝一郎

第十海軍軍用郵便所員ヲ命ス
但シ身分ノ取扱ハ雇員トス

事務員 山本 誠

第十海軍軍用郵便所員ヲ免ス(以上諸同)

○ 雜 款

○將旗復歸
第三根據地隊司令官ハ六月十二日將旗ヲ陸上司令部ニ復歸セリ

○郵便物發送先
瑞鶴艦裝員事務所宛
六月二十一日以後到達見込ノモノハ

神戸市兵庫區東出町一丁目
海軍艦裝員事務所内

○練習生採用試験問題發送

第十八期高等科運用術操艦練習生
應急練習生

第二十一期 高等科信號術練習生
第二十八期普通科測的術練習生

第二十六期普通科水雷術練習生
第三十六期普通科機雷術練習生

第七十六期普通科運用術操艦練習生
第七十七期普通科運用術操艦練習生

同 應急練習生
本月十日左記ノ通發送済

一、聯合試験參加不可能ト認メラルル向ニハ直接、其ノ他ハ各海軍人事部長並ニ要港部副官宛送付セリ

二、行動其ノ他ノ都合ニ依リ臨時必要ノ分トシテ若干部數前項各官及上海海軍特別陸戰隊司令官宛送付シテアリ
未着ニシテ所要ノ向ハ前項各官ヨリ受領若クハ海軍航海學校ニ通知相成度

(海軍航海學校)
(海軍砲術學校)
(海軍水雷學校)
(海軍機雷學校)

○練習生採用試験問題發送

第九十五期横須賀海軍砲術學校高等科砲術練習生
第九期横須賀海軍砲術學校高等科的術練習生
採用試験問題

右六月十二日左記ノ通發送濟、未着ニシテ別ニ必要ノ向ハ横須賀海軍砲術學校へ至急御通知相成度

記

一、單獨試験施行豫定ノ各部ニハ直送セリ

二、聯合試験用ノモノハ各海軍人事部及各要港部宛送付

三、聯合試験參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲聯合試験參加不能ノ向ニ對スル分トシテ前記宛單獨試験用若干部送付シ置ケリ

(横須賀海軍砲術學校)

○特務艦石廊行動豫定變更

地名 着

吳 須賀 府
八月十二日

發
六月十四日
七月十四日
八月九日

○艦船所在 印ハハカセノ
指定ヲ要セズ

○六月十六日午前十時

【横須賀】

春日▲ 劍埼▲ 山城▲ 陸奥▲ 國後▲
伊七▲ 伊八▲ 伊七▲ 伊八▲

伊七▲ 伊八▲ (伊二三)▲ (伊三三)▲
伊三七▲ 知床▲

【長浦】

多摩▲ 野分▲ 萩風▲

伊六二▲ 伊六一▲ 伊一▲ 伊二▲ 伊三▲
伊一五▲ 伊二三▲ 伊一四▲

【石川島】

鶴見▲ 筑紫▲

【浦賀】

香椎▲ 筑紫▲

伊五二▲ 伊三四▲ 伊三五▲

【吳】

北上▲ 淺間▲ 八雲▲ 千代田▲

伊五七▲ 伊五八▲ 伊五九▲ 伊五三▲
伊五四▲ 伊五五▲ 伊五八▲ 伊一二二▲

伊一七▲ 伊一八▲ 伊潜五一▲ 伊潜五二▲ 伊潜五三▲

【大阪】

球磨▲ 舞風▲ (伊潜二一)▲

【神戸】

伊一○▲ (伊二一)▲ (伊二五)▲
伊三一▲ (伊良湖)▲ (伊四一)▲

【相生】

朝霧▲ 天霧▲

【玉】

伊六○▲ 伊潜一九▲

【佐伯】

伊潜二○▲ 伊潜三二▲ 伊潜三三▲

【舞鶴】

薄雲▲ 呂三四▲ 伊潜三六▲ 伊潜三七▲

【魚津】

木曾▲ 金剛▲ 磐手▲

伊五九▲ 伊潜一六▲ 松風▲ 春風▲ 若葉▲ 初霜▲
呂三〇▲ 呂三一▲ 呂三二▲ 呂三三▲

海軍公報(部内限) 第三千八百二十號

昭和十六年六月十六日

七六九

1639

